

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 6 日

【評価実施概要】

事業所番号	3671200263
法人名	医療法人 青鳳会
事業所名	グループホームみま石井
所在地	徳島県名西郡石井町浦庄字上浦524番地9 (電話) 088-674-0234

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 27 日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤:13人、非常勤:3人、常勤換算:1階 7.6人 2階 7.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	<small>職員リース代:2,000円、光熱水費:6,100円、その他:実費</small>	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	- 円
	または1日当たり - 円			

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.8 歳	最低 60 歳	最高	91 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医)青鳳会 美摩病院、さとう歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は国道沿いの吉野川市と石井町の境界近くにある。また寄り合いに事業所を使ってもらうなど地域と連携し、近隣住民や高齢者との交流を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な課題である「運営推進会議を活かした取り組み」について、運営推進会議は2か月に1回開催し、全職員への議事録の回覧、確認印・サインを行っている。「鍵をかけないケアの実践」については、改善されるまでには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を基にして改善計画と行動指針をまとめ、改善シートを作成して課題解決に全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、老人会会長、市町村職員、消防署職員、地域住民、職員が参加している。会議では外部評価結果や利用者の近況報告、サービスの質の向上や行事計画、防災訓練、地域との連携、協力体制づくり等の話し合いを行い、参加者間で議論されている。会議内容は議事録に残し、全職員に回覧して周知し、確認印・サインも残されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置し、利用者や家族からの要望等が言い出しやすいよう配慮している。意見等はその内容や改善状況、結果報告等を詳細に記録し、ミーティング等で全職員に周知している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ボランティアの来訪があり、利用者と馴染みの関係を築いている。また消防の自主訓練への参加や、地域の寄り合いに事業所を使ってもらうなど地域住民と連携している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らせることを支えるケアについての意義を理解し、「地域との交流」を理念に取り入れ実践に努めている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を毎朝唱和し、利用者への言葉かけや接する態度など実践に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの来訪があり、利用者との関係性を築いている。また消防の自主訓練への参加や地域の寄り合いに事業所を使ってもらっている。地域からは行事への誘いがあるなど、お互いに連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を基にして改善計画と行動指針をまとめ、改善シートを作成して課題解決に全職員で取り組んでいる。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、老人会会長、市町村職員、消防署職員、地域住民、職員が参加している。会議では外部評価結果や利用者の近況報告、サービスの質の向上や行事計画、防災訓練、地域との連携、協力体制づくり等の話し合いを行い、参加者間で議論されている。会議内容は議事録に残し、全職員に回覧して周知し、確認印・サインも残されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	広報活動や書類の提出時に、情報収集や意見交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りや家族来訪時の話し合いにおいて、日頃の暮らしぶりや健康状態、金銭支出等を報告し、確認印・サインをもらっている。家族の状況に応じて電話で近況報告を行ったり、緊急時等にはその都度報告したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、利用者や家族からの要望等が言い出しやすいよう配慮している。意見等はその内容や改善状況、結果報告等を詳細に記録し、ミーティング等で全職員に周知している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット相互に職員が行き来し、利用者と馴染みの関係を築き、離職や異動があった際には影響を軽減できるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は計画を作成して参加している。受講内容は記録して全職員に回覧し、確認印・サインを残す仕組みをつくっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会徳島県支部に加入し、研修会に積極的に参加して、同業者と交流をすることでサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に利用者の生活歴や習慣などの情報を家族から聞き、これまでの生活が継続できるよう支援するなど、徐々にホームに馴染んでもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの伝統や習慣、季節の催事を教えてもらったり、困った時には知恵を借りたりして、利用者の力が発揮できる場をつくり、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、声かけや話し合いを持ち、意向の把握に努めている。困難な方には日々の関わりの中で、行動や表情から汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で把握した利用者の意向や、面会時に家族に聴いた要望等を反映し、介護計画を作成している。計画には本人・家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行っている。利用者からの要望や状態の変化があれば家族と相談して、現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を整備し、家族の状況に応じて職員が病院に付き添うなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。また歯科や皮膚科、眼科など専門医の往診も受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に文書で確認している。利用者の状況に変化があった場合には医師との相談や家族への状況報告などを行い、その都度話し合いを行いながら方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに関しては入居時に契約書を交わしている。利用者に対する職員の言葉かけや対応、名前の表示などにも配慮している。外部から利用者に関する問い合わせがあった際には家族に確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者それぞれのペースを大切に、パソコンを持ち込んでいる方には居室で机に向かう時間を設けるなど、体調や生活のリズムに合わせた生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の食べたいものを出したり、おやつづくりに準備段階から参加してもらっている。食事が楽しみになるよう、旬の食材を取り入れた一品を作るなどしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は曜日や時間を決めず、いつでも好きな時間に入れるよう支援している。利用者の体調や状態に応じて足浴やシャワーなどで楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者一人ひとりの生活歴を聞き、得意分野や経験を生かし、その人のできる力に応じて張り合いがもてる生活を送れるよう支援している。利用者は庭の草取りや調理、掃除、食事の後片づけなどの役割を持ち、生き生きと暮らしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域行事への参加や季節ごとの花見など、全員での外食や観光を楽しんでいる。天気の良い日には庭に出て日光浴をしたり、散歩をしたりして安全に配慮しつつ戸外へ出かける機会を積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠を行わない時間を設けるようにしているが、ホーム横が国道で交通量も多いため玄関は鍵をかけている。またベランダ側のドアも開く幅が制限されており、自由に戸外に出ることができない。	○	利用者の安全に配慮しながら、鍵をかけないケアに取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、行動計画の中でも常に防災について検討している。訓練には地域住民や周辺機関からの協力も得られ、役割分担がマニュアルに明記されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録に残し把握している。献立は、母体法人の管理栄養士にアドバイスをもらっている。食事形態は利用者一人ひとりの状態にあわせて刻んだりつぶしたり、とろみをつけるなど工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用空間には観葉植物や花を生けたり、利用者の作品を飾って季節感を出している。浴室やトイレの清潔と消臭対策に力を入れている。ソファにはクッションやぬいぐるみ、和室にはコタツや座布団などを置き、家庭の雰囲気づくりがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた調度品を持ち込んだり、写真や小物を置いたり、家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。		